

教職員・院生版生協だより

かけはし

No. 369

2024年10・11月号

発行 名大生協理事会

編集 名大生協教職員委員会

☎学内線 7540 学外線 781-1111

地域別組合員懇談会を開催します

生協を利用して思っていること、こうしたい、ああしたい。などなんでも生協スタッフと一緒に話ませんか？ 7日前までに参加の連絡をいただければ、弁当とお茶を用意します

- ・グリーンサロン東山：10月18日（金）12：10～
- ・フレンドリィ南部：10月22日（火）12：10～

連絡先：kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp 迄

全国教職員セミナー報告(8月 30日～31日 オンライン開催)

本当は山形大学で開催されるはずだったが、台風の影響でオンライン開催になってしまった。1日目は6件の報告、2日目は分科会に分かれて報告・グループ討論を行った。私は「読書+α」の分科会に参加している（全国教職員委員のため、参加していた）。出版業界には、インターネットという強い逆風が吹いている。名大生協や大学生協もその例に漏れず書籍部門の状況はどこかの大学生協も芳しくない。しかし今回の分科会での発表で本を読む人はかならずしも減っていない。いっぽう本を読む人と読まない人はどうやら二極化しているようである。私自身は10年前まで読まない人グループだった。しかしあるきっかけで、10年前から本を読むようになってからは、年間1000頁程度読んでいると思う。それが多少いかに少ないかはわからないが、誰かと競うために本を読むわけではないので大した問題ではない。読む量が大了問題になるとしたら、たくさん読めば金がかかるという経済的な問題だけだろう。余談だが、だいたい私が買う本は2-3頁/頁だ

図書館で借りたらどうかって？いやだ。言葉では説明できない部分もあるが、何度も読み返すことがある。所有したい。という2点は理由の一つだ。

本を読まなかったのだから、ある本を読み終えたらまた読まなくなりそうなものだが、そうはいかない。北王子魯山人が魯山人味道(北大路 魯山人 (著)、平野 雅章 (編集) 中央公論新社 (1976))のなかで「美食の道は先へ先へと終わりが無い」と言っていたように、どんな分野でもやればやるほど、ニューロンの伸長のように次々とやりたい・知りたいことが湧き出てくる。例えばある本を読んでいてその中に別の本の引用があったとすると、その本も読んでみたくなる。こうなると鼠算のようにニューロンは伸長していくので終わりなどあろうはずがない。

そして、数年たつと自分自身が数年前より高品質になっていると感じるようになる。そうするとますます読まないグループには戻ろうと思うことすらなくなるのだ。今後の連載への伏線だが、この、自分自身の自己評価が高くなるというのは、かなり強い動機付けだ。少なくとも金銭インセンティブなどという、最も知恵を使わないうえ、費用対効果の薄い動機付けよりは効果的と言えるだろう。しかし、初めからそこを目指したわけではなく目の前一文一文字、一冊一冊、興味のニューロンをたどった結果そうなっていただけだ。

そこで、今回から、わたしが読んだ本の紹介を掲載したいと思う。連載タイトルは以前に神野さんが連載してくれていたタイトルを使わせてもらって、「帰ってきた・本棚をながめて」にしたいと思う。読者の皆様もお勧めの本があれば5頁のアドレスまたは、かけはしへの感想・意見送ってください。もちろん紹介記事、読書感想文を送っていただくのも大歓迎です。長さは問いません。どんなに長くてもどんなに短くてもOKです。

このような考え一般的ではないかもしれないが、私自身の紹介はできるだけ短くありた

い。その本の何が重要だと思ったか、何を感じたか、短い方がより強い熱量を感じた点に、集約されるからだ。ある意味競馬新聞の6文字短評は究極の結晶と言えるかもしれないこの連載が読まないグループの人が本を読むきっかけになってくれればうれしいが、やっぱり世の中は「なっていく」のだからどうにもならないことだってある。それはそれで仕方ないではないか。

帰ってきた・本棚をながめて①

① <インターネット>の次に来るもの未来を決める12の法則 (ケヴィン・ケリー (著)、服部 桂 (著、翻訳) 新潮出版 2016/7/23)

実は何度も読み返そうと思わなかったのですが、この本はすでにメルカリで売ってしまって本棚にない。だから本棚をながめてというタイトルには不適切かもしれないが、この本にかかれていた「なっていく」という表現がとていろいろな分野に汎用性が高く、力んで逆風を切り裂いて頑張るわけではなく、自然に流れていくという語感がして、私は好きなのだ。だからこの言葉しかこの本の内容は覚えていない。

② 人間失格 (太宰治)

この本を読んだのは22年前。名大に採用されることが9月に決まり、3月末まではとりたててやる事がなかった。バイト先も倒産してしまい、お金もないが時間はある。そこで、BOOKで10円の文庫本を買ってできるだけかみしめるように時間をかけて読むようにしていた時に読んだ一冊だ。

当時の私の状況は、前職のスガキヤを退職し、国家公務員試験に受からなかったらどうする？というような尻に火が付いた状態を脱し、ある意味悩みの消えた穏やかな状況だった。そんな心持の時にこの本を読んで、なんだかとても沈んだ暗い気持ちになった。それだけでこの本の価値が分かるというものだ。沈んだ暗い気持ちの時には決して触れてはいけない作品だと思う。

次回予告

・行動を起こし持続する力 外山美樹著 新曜社 (2012)
・幸福について―人生論 ショーベンハウアー (著)、橋本 文夫 (翻訳)、(新潮文庫) 1983

以上の2冊を横断してなんか書こうと思っています。キーワードは内面。これが次回の要旨かもしれません。次回に続く

その他次回 (もしかしたら次々回) 予告

・ビジネスエリートになるための教養としての投資
奥野一成 (著) ダイアモンド社 (2005)

・異端であれ きぬた 泰和 (著) KUKAWA 2017 19

・身銭を切れ (原題: SANNITHEZME

ナシーム・ニコラス・タレブ (著), 望月 衛 (翻訳), 千葉 敏生 (翻訳) ダイヤモンド社 2012 11

正欲 朝井リョウ (著) 新潮社 2021 5 2

などの読書感想文を考えています。

感想意見はこちら；クイズの回答はなくて OK

メール宛先: kyokoku@compagny.com.jp



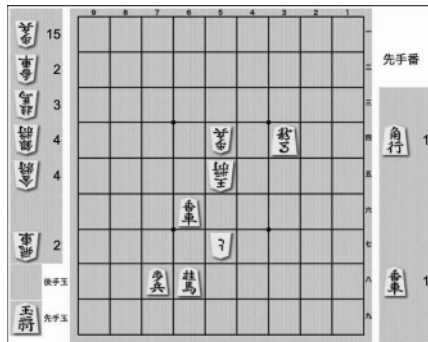
CO-OP QUIZ

今号はクイズを2題用意しました。詰め将棋でも裏表紙のクイズのどちらでも結構ですので、上記QRコードより回答をお寄せください。

詰め将棋のルール

- 1.攻め方(先手)が玉方(後手)の玉を詰ますのが目的。
- 2.攻め方は必ず王手をかける(玉方は必ず王手をはずす)。
- 3.玉方は盤上と攻め方の持駒以外すべての駒(ただし玉は除く)を合駒として使用できる。
- 4.玉方は最善を尽くし、最も長く手数がかかるように逃げる。
- 5.玉方は無駄な合駒をしない。
- 6.その他は指し将棋のルール通り。二歩、打ち歩詰め、行き所のない駒、連続王手の千日手はいけない。

出典:日本将棋連盟公式ホームページ



国際開発研究科リレー・エッセイ 5

「忘れられない問いかけ」

芦田明美

「教科書に書かれてることが全部ほんまやと思ってんの？」

これは、私が大学生の時に受けた、忘れられない問いかけである。自分で言うのもなんだが、大学入試のために真面目に受験勉強に取り組んできたので、教科書に書かれていることは正解だと思っていたし、真実だと思っていた。特に歴史や現代史として教科書に書かれている内容は、(苦手ゆえに)暗記をベースに覚えてきたので、そもそもそこに書かれていることが本当かどうかということに疑問を持ったこともなかった。

そんな時、上記の問いかけを受けたのである。教科書に書かれていることは真実だと思って疑わなかったで、「え、この先生、何言うてはるんやろう？」と戸惑い、何も返せなかった。よく言えば、京都府北部地方の田舎育ちで、ビュアビュア(純粋なことを可愛く言ってみた)だったのである。そんな私がこの問いかけを受けてから、物事に対する見方が少しずつ変わり始めた。これまで、教科書や書籍に書かれていることに対して、そもそもそれが本当なのかどうかなど疑問を持つことなどなかったのが、「これは本当なのかどうか」と考えるようになったのである。この経験が一つのきっかけとなって、高次の論理的、批判的思考を求められる研究の道に進むようになったと言っても過言ではない。

博士課程修了後、国際機関での実務経験を経て、今、幸運にも大学教員として教鞭を執ることができている。大学等の高等教育機関が求められてきた伝統的な役割としてよく挙げられるのが、教育、研究、そして社会貢献である。大学の教員にとっては、研究だけでなく教育も職務の一つであるから、その両方に携わってみたいと思い、大学の教授職という道に進んだ。教育というのは、人ひとりの人生を良くも悪くも変え得る、変革する力を持つものであると考えていて、現に自身がそうであったと感じている。かつて自身が得た問いかけのように、誰かの人生の転換点になるような、そんな問いかけができる教員になりたいと、おこがましくも思っている。

現在、名古屋大学に着任してから 3年目になる。国際開発研究科で教鞭を執っているので、授業では普段から大学院生、特に留学生に接することが多い。専門科目の授業がメインのため、こんなことを聞くことはあまりないのだが、ある時ふと問いかけてみた。「テレビや新聞などのマスメディアが言っていることはすべて真実だと思う？」

すると、多くの留学生が **NO** と答える。その一方で、え？とキョトン顔をしている日本人学生、アジア出身の留学生たち。

ここに一つ、興味深い調査結果があるので、ぜひ紹介したい。東京都市大学名誉教授の青山貞一先生による調査報告で、世界の人々の「情報の鵜呑み度」を国際比較したものだ。これは世界 6カ国価値観データブックをもとに、マスメディアによる報道をそれぞれの国の国民がどのように受け取っているのかについて分析されたものである。なんと情報の鵜呑み度のトップは、日本（72%）である。日本の後に、フィリピン（68%）、韓国（61%）、中国（61%）とアジアの国が続く。情報の鵜呑み度の低い国はというと、低い順にイギリス（42%）、アメリカ（33%）、ロシア（24%）、フランス（32%）、ドイツ（36%）と続く。いわゆる欧米と言われる国々である。このランキングは 200年のもので、日本リサーチセンターによる調査は 205年で終了しているとのことだが、205年時点でも日本人の情報の鵜呑み度は、+23% 23%日本はトップを維持していた。

日本人は、よく言えば素直で疑うことを知らない、でも悪く言えばすぐ騙されるお人好しと言えるということか……。そういえば、203年頃からオレオレ詐欺というものを耳にするようになり、当時高校生だった私はそんなひどいことをする人があるんだと信じられなかった。今でも特殊詐欺の一つとして社会問題になっているが、実はこれは欧米ではあまり聞かれない。日本や韓国、中国などのアジア特有の犯罪なのだそう。情報の鵜呑み度ランキングのこの結果を見れば、なんだか納得である。テレビや新聞が報道することは真実だと思って疑わない。でも、振り返ってみれば、先の問いかけを受ける前の、かつての私もそうだったのだ。

先般の COVID-19パンデミックにより、海外出張になかなか出られない期間が続いた。それを契機に、日本国内の教育現場に目を向けるようになり、近年は社会貢献活動の一つとして、「情報をどのように捉えるか」についての、学外での教育実践に携わっている。きっかけは、先の問いかけをくださった、関西学院大学の關谷（せきや）武司先生（私の教育・研究活動の師匠である）が実施されている、高校生対象の探究学習プログラムに参加したことである。このエッセイを読んでくださっている方々の中には、「探究」というものにあまり馴染みのない方もいらっしゃると思うので、少し説明をしたい。日本の教育現場では、208年の学習指導要領の改訂に伴い、高等学校にて「総合的な学習（探究）の時間」が導入されることになった。今の高校生は、時間制の中に「探究」があり、学習活動の一つとして取り組んでいる。この「総合的な学習（探究）の時間」についての文部科学省の説明を引用すると、

「総合的な学習（探究）の時間は、変化の激しい社会に対応して、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指していることから、これからの時代においてますます重要な役割を果たすものである。」

ただ、その探究の内容は、実際には現場の教員の裁量（と言えば聞こえがいい）に任せら

れていて、正直なところ、現場の先生方は困っていらっしやる。「なかなか調べ学習の域を超えられない」「学習指導要領の示す、高次な探究とは何なのか?」……そんな切実な声をよく耳にする。

さて、私が携わっている、「国際情報分析（知の探究合宿）」と名付けられたこのプログラムは、關谷先生がもともと学内で授業として作り上げられた国際的な探究型授業をベースに、高校生向けにアレンジされた 1泊 2日の合宿型の研修である。この「国際情報分析」は、単に情報を受け身的に取捨選択するだけでなく、自らが主体となって情報を分析・評価し、最終的には自分自身の考えを論理的に構築していくことを目的とした、高次の論理的・批判的思考を促す探究手法である。ちょっと長い説明になるが、せっかくなのでその概要を紹介したい。

生徒らは、国際情報分析の 5つのステージに沿って探究を進める。まず、インターネットを活用して課題の大枠を掴み（Step1、そこでキーとなる情報（論点）を選択する（Step2、さらに、それらの情報を国際情報分析の 5つの観点（①根拠の検証、②背景の把握、③利害関係の把握、④論理性・妥当性の検証、⑤三角検証）にもとづき、グループメンバーと検討を繰り返す（Step3。最後に、その探究成果をプレゼンにまとめて発表する。これを一泊二日の合宿という缶詰状態で行うことで、参加生徒の知的好奇心を刺激し、グループメンバーとの協働で妥協のない探究活動を促す。」

高校生たちは、現代に「情報」として溢れているが賛否両論あり、唯一の解というものがまだ出ていない社会問題の一つをテーマとして与えられる。はじめは聞いたこともない、聞いていたとしても日常生活の中で深く考えたこともなかった、そんな情報について、グループのメンバーで手分けしながら、書籍やインターネットを駆使して徹底的に調べる。そこでは、賛成意見も反対意見もくまなく探し出し、目を通す。正直、調べれば調べるほどわからなくなる。しばしばたくさんの「情報」に埋もれながら、「情報」を鵜呑みにするのではなく、「それ、ほんまなん?」を合言葉に真実を追い求めて探究する。普段は教科書や参考書をベースに、「それ、ほんまなん?」などと考えずに、解のある問題に取り組んでいる生徒たち。学習範囲が決まってい、いわゆる「与えられた枠の中で学んでいる」のだ。そこでは、受け身の姿勢でも、ある程度学ぶことができる。そんないつもの学習とは異なり、国際情報分析では、解が一つに決まっていない問題に取り組むため、学習範囲が限定されない。いつも与えられてきた枠の範囲を超えて、かつ能動的に考えないと、自分たちの答えに辿り着かない。

調べが進むなかで、少しずつ彼らの「意見」が出てくる。「自分はこう思う、こんなふうを考える。」生徒から出てきた考えに対して、指導者側は、「それは、なんでなん?」「どうしてそんなふうにするの?」と、問いかける。それを受けて、生徒らはまた、うーんと頭を捻り、考える。指導者側は、決して答えは教えない。一つの考えに誘導することもしない。繰り返し「問う」ことで、彼らの思考を深めていく。

生徒らはひたすら、「考える」ことを求められる。そして、限られた時間の中で、現時点での、グループとしての自分たちの見解を導き出す。これはまさに、大学での学びの形であり、研究に通じるものである。

1泊2日しかないのだが、この期間で本当に高校生の様子がガラリと変わる。これまで他人事で流してきた社会の出来事に目が向くようになり、自分事になる。そうすると、その後の日々の勉強への取り組み方も変わってくる。

この様子を目の前で見た時、この教授法を身につけ、学習者の意識が変わるその瞬間を提供できるようになりたいと思った。かつての私が衝撃を受けた問いかけのように、そんな体験を提供できるようになりたい、と。

実は名古屋大学に着任して2年目の2013年、偶然にも学部生対象の全学の授業を担当する機会を得られたので、この探究型の学習を授業の枠の中で試してみた。学部生にも、先の院生と同じように問いかけてみた。「テレビや新聞などのマスメディアが言っていることは全部本当のこと？」

結果は同じく、え？とキョトン顔。「そんなこと、考えたこともなかった」「ニュースとして流れてくる情報を疑うことはしたことなかった」

そんな彼らに、国際情報分析の5ステージを説明して、国際的な問題のテーマをグループごとに提示した。学生たちは意欲的に、授業時間内外にグループワークに取り組んでくれた。

さすが名大生。いろんな情報をもとに質の高い、興味深い探究成果を出してくれた。グループワークは大変だったけど、こんなふうに情報を捉えたことがなかったので、面白かったという声も聞こえた。

名大に着任して地元になくなったので（と言っても遠いのだが）、出身高校からかねてから依頼を受けていた講演をさせてもらうことになった。その講演の中で、探究型授業の例を紹介した。先生方に興味を持っていただくことができ、2021年の今年は母校での知の探究合宿の実施にも繋がった。これは、最近嬉しかったことの一つである。

ずいぶんと自由に書き連ね、とりとめのない話になってしまった。最後はどのようにまとめようか・・・せっかく大学教員になる縁をいただけたので、教育、研究、社会貢献と3つの職務に、それぞれ意欲的に取り組んでいきたいと考えている。その活動の中で、誰かにとっての自己変革のきっかけになる、忘れられない「問いかけ」ができるようになれば、と思っている。

<参考情報・文献>

福知山成美高等学校、「一泊二日の『国際情報分析プログラム』に参加しました」、2021年6月21日、<https://www.hsjp.ac.jp/entry/1164/detail.html?entry&id=33>。

関谷武司編、2021『インフォメーション・アナリシス 555 世界が変わる学びの革命』、関西学院大学出版会。

第一回かけはし執筆者の会

かけはしに寄稿してくださっている鳥飼さんから、「かけはし執筆者の座談会をやりませんか？」という提案を受けた。そういう可能性が広がると感じられることは大好きだったので、早速、現在の執筆者の方に提案してみた。皆さん賛同してくださったので、7月10日に名大南交差点付近のプレッシングスで開催した

集まったのは、かけはし執筆者として、国際開発研究科リレーエッセイを365号から担当してくださった、伊東先生、内海先生、岡田先生、



鳥センジャーナル（連載終了）・スナップショット・医療ネタなどを執筆してくださっている鳥飼さん、かけはし編集委員として、教職員委員の加藤、伊藤の6名だった。ほとんどの参加者が初対面とは思えないほど、話に花が咲き、私もとても楽しくあっという間に時間は過ぎてしまった。この会を提案してくださった鳥飼さんありがとう。思った通り楽しい会だったので今後も定期的に開催したいと思う。また、執筆者だけでなく、読者の方も交えても面白そうな気がする。何より、参加者全員が、また開催しようと言ってくれたこと、かけはしという期間誌のことを堅苦しくない雰囲気の紙面をみなさんとても高く評価してくれていたことが、嬉しかった。

●食べ物のお話

インドネシアで、当時まだインドネシア語がわからなかった内海先生は、インドネシアで食事に招待された時の話。丸くて柔らかい外観で中にホイップクリームでも入っているのかなーと想像させるものが食後に提供された。食後のデザートのカレーケーキか何かだと思って食べたら「幼虫入り蜂の巣丸ごと一つ」といったものだった。日本でも山間部ではへボと言われて今でも蜂の子を食べるがこの話はそれと比べてもはるかに印象的だった。

他にも、ヨルダンのスイーツは日本のスイーツの10倍甘い！！という話など、いろいろな国に行かれている国際開発研究科の皆様ならではの話を聞けて楽しかった。スイーツを酒の肴にされる内海先生が言われるのだから相当甘いのだろう。そういえば、ブラジルのスイーツも甘いが、気温の高い地方のスイーツは甘いような気がする

食べ物の話をしていいるときに、「国際開発研究科教員とスイーツを食べ歩く」というのも面白そうですね。というはなしになったので、もし読者の方と一緒に行ってみたいという方がおられましたらかけはしの輪または kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp にご連絡ください。行きたい方が一人でもいれば与太話が現実になります

●ヒルの話、丹沢の話

鳥飼さんが出身地秦野の話をされた時、鳥飼さん自身はおそらく、誰も知らないだろうと思っていたようだ。ところが、意外と半分の人が知っていた。もちろん私は知らなかった何処？丹沢の近くって言われたけれど丹沢すら私は知らない。丹沢の話から、丹沢ではヒルが最近よく出る、農学部の水田にもヒルが出るらしい、多度山に走りに行ったときヒルが出ると聞いていたので、身構えていったら、通り過ぎるランナーはみなとても軽装だった。私は幸運にも、いまだにヒルに遭遇したことがない。ヒルが出る出ると注意を促されたことはあるが

●100 km ！！

岡田先生は 100 kmエクストリームウォークに参加されたことがあるそうで、以前に永峰先生に投稿していただいた、四万十川ウルトラマラソン（100 km）の記事を読んでくれていた。歩くのは走る以上につらいと思う。なにせ時間が長い、そして同じ時間でも歩く方が接地している時間が長いのもそう思う理由の一つだ。私はどちらもやりたくない。どちらかというと 1500mの方が好きだ。

岡田先生と永峰先生の 100 km対談というのも面白そうだった

●国内実地研修(DFW)、内海先生のバイクツーリングの話

国際開発研究科が留学生に日本の地域社会をみせて課題を学ばせるプログラムとして、関に行った話になった。出席者のかけはし編集委員の加藤は郡上八幡の中嶋屋という旅館の出身ということもあり（中嶋屋の看板ネコのべかちゃんは、かけはし 358 号、361 号に登場しました）、DFW で郡上八幡ではなく関が選ばれた理由の話になり、郡上八幡は都会すぎるので、関くらいが良いという理由だったそう。私は毎年富山県の小矢部に行くのだが、その道中東海北陸自動車道の道中で通る郡上八幡は確かに都会だ。そんなこれぞ日本の田舎の風景！！という話から、長良川鉄道は車窓から見える景観がいい！という話やその終着駅からタクシーに乗って行かないといけない石徹白（いとしろ）というところがあり、内海先生はバイクツーリングが趣味で、岐阜の板取から郡上、九頭竜湖方面によく行くのだが、石徹白（いとしろ）は九頭竜湖の北の方にあることなど、話をしているだけで各地の景観が目に見えそうで、色々出てきた。色々出てきた。

●販売の話

名大農場は生産物を売っている。それなら、国際開発研究科の教員が海外のお茶とかを買ってきて、大学として売れないのかな？という話になった。しかし農場の生産物は生鮮食品で、加工品の販売は手続きが違うらしい。岐阜大学では加工品を売っているので、岐阜大学で加工を担当している方に加工品の販売について聞くとか何か開けるかもしれないと思った。あれ？でもすでに加工されたものを仕入れてきて売るなら卸売りで加工販売ではないのかな。とか後日この原稿を書いていて思っている。読者の方で何か良い知恵をお持ちの方がおられましたら、ご連絡いただくか次回の座談会にご参加ください

●擬態語の話

座談会が終わった後の駅への帰り道、擬態語の話になった。ビャーっとかツッっとか、私は使わないが聞いたことはある。しかし、関東出身の内海先生、鳥飼さん（このとき伊東先生は反対方向への家路につかっていた）は、その擬態語は言わない。といわれていました

日本史×科学 第3回「平安貴族と糖尿病」

私(鳥飼)、NHK の大河ドラマが結構好きでよく見えています。2024 年は平安時代が舞台。摂関政治の頃、「この世をば 我が世とぞ思う 望月の 欠けたることの 無しと思えば」で有名な藤原道長がダブル主人公として出てきます。

平安時代の藤原氏と言えば、「摂関政治」で、政治権限をほしいままにしろと言われていましたね。特に藤原道長は姉が一条天皇を産んだ国母、道長は一条天皇に娘彰子を入内させ、娘は男子を産みました。そしてその孫を後一条天皇にして、道長は天皇の外祖父となり摂政になりました。

ですが、実は道長はこの後一条天皇の時に摂政になりましたが、関白には一度もなっていません。関白は天皇を支えるという位置付けですが、何でも勝手に決められるわけではありませんでした。何故なら 1 番重要な事項を決定する会議「陣定(じんのさだめ)」に出ることができないのです。

しかし彼の書いた日記は「御堂関白記」と呼ばれています。後世の人(おそらく子孫)が勝手に名付けたようです。

さて見た目には華やかで権力者の平安貴族である藤原道長ですが、病気がちだったとも記録されています。彼の日記「御堂関白記」や、同時期の貴族・藤原実資の日記「小右記」、また同じく同時代の貴族・藤原行成の日記「権記」や、仮名で書かれた物語風史書「栄花物語」(女流歌人・赤染衛門他作(説))には、現代医学的にみて糖尿病だったのではないと思われる記述があります。
※藤原実資の小右記は 55 年間の詳細な記録があり、本人も相当長生き(90 歳近い！) だったようです

道長の病気は腰痛(33 歳)、51 歳頃に胸痛・多飲(水)、53 歳頃に白内障(?)、61 歳で腫れ物・敗血症(?)になって亡くなったと記録されています。例えば多飲の様子は「摂政仰せられて云る。去三月より頻りに漿水を飲む。就中近日昼夜多く飲む。口乾き力無し。但し食は例より減ぜず」と書かれています。喉の渇き、しきりに水を飲むのは糖尿病の典型的症状です。この当時、この水をしきりに飲む症状を「飲水の病」と呼んでいたようです。2022 年の大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」でも源頼朝が飲水の病ではないか、と噂されていたという描写がありました。

道長の兄・藤原道隆は「水を飲みきこしめし、いみじう細らせ給い」、多飲があり 43 歳で死去しています。道隆の子伊周も同様の症状「日頃水がち」で、37 歳で死去、伯父の伊尹も「水を飲みきこしめし」49 歳で没しており、遺伝の可能性もあります(インシュリンの分泌が弱いか、効きにくい体質？)。他に視力については「大殿清談せられ、次いで目見えざる曲を命(おほ)す。近づくも則ち汝の顔殊に見えず。申してふ、晩景と屋の時と如何と。命せて云ふ、春時と白屋とに困らず、貝殊に見えざるなり」と、昼夜関係なく見えなくなるのは白内障に近いですが、51 歳で多飲があることから、糖尿病由来の網膜症とも考えられています。53 歳頃だと年齢的に白内障でもおかしくはありませんが(私もアラフィフですがやや目が白濁していると診断されています)。背中に大きな腫れ物ができたのも化膿しやすくなる糖尿病の合併症と考えられています。

藤原道長は大きな権力を手にしましたが、そこに至るまでには親族同士の権力争い(甥の伊周・一条天皇・三条天皇)や、天候不順(鴨川氾濫)・疫病(赤疱瘡(あかもがき、麻疹のこと))によるストレス、貴族特有の贅沢な食事と頻繁な宴会、運動不足(あまり徒歩で歩き回らない)などが重なった事が考えられます。

宴会に欠かせないお酒について調べると、この頃のお酒は現代の日本酒の作り方とは異なり、延喜式に酒の作り方が記載されています(宮中に造酒司という酒造の部署があった)。5種類の酒の材料の配合などが記載されていますが、どれも甘口で糖分が高いそうです。道長の兄道隆は酒呑みだったらしいので、そちらも早逝の原因かもしれません。また平安貴族の食生活についてですが、通常は朝10時と夕4時の食事(主食は米、副食は魚鳥、野菜、海藻類、果物)の他、間食・夜食を摂り、週に2〜3回は宴会で、タイ、エビ、サケ、コイ、アユ、サザエ、白貝、雉を食べ、酒を大量に飲んでいました。食事と運動不足が原因ならほとんどの高級貴族がそうなりそうですが、細かい記録が残って糖尿病と推定できるのは、やはり最高権力者だからかもしれません。

ただし、最近の研究では、低所得者の方は糖尿病有病率が高い(1.2〜1.4倍)という話もあります。所得が少ない→割高な肉類などの蛋白質や野菜よりも空腹感を満たしやすい炭水化物を買いがち・医療機関にあまり行かない・ストレスを溜めがち、と考えられています。糖尿病が富裕層の贅沢病というイメージは変えないといけません。第一に、食生活に関係なくインシュリンが作れなくなる1型糖尿病があります。糖尿病のうちおよそ5%が1型で、子どもや若者が発症することが多いです。贅沢とは関係ありません。またこの病名が贅沢病と勘違いされる所以のようです。その為、「糖尿病」の名前は誤解を招く、また必ずしも「尿糖がある」イコール「糖尿病」ではないとして、英語名「diabetes mellitus」から「ダイアベティス」に変更しようという流れができています(2023年9月日本糖尿病協会と日本糖尿病学会の提案)。diabetesは頻尿を表しています(ギリシャ語由来でdia=through, betes=pass, 飲食しても体を通り抜けるの意味)。血糖値が高いままだと血流が悪くなるので濃度を抑えるために水を飲み、尿で糖を排出します。たくさん尿を作ると水分が不足します。そしてまた沢山水を飲もうとするのです(多飲)。またmellitusは蜜の意味で、この言葉が日本に入ってきた江戸時代末期には「蜜尿病」と訳されたようです。

<参考資料:本は大学図書館で借りられます>

藤原道長「御堂閨白記を読む」, 倉本一宏, 講談社

日本における糖尿病の歴史, Diabetes journal 編集委員会, 山之内製菓

道長と宮廷社会, 大津透, 講談社

日本の酒の歴史:酒造りの歩みと研究, 加藤弁三郎編, 研成社

菊正宗ホームページ「日本酒図書館」

https://www.kikumasamune.co.jp/toshokan/06/06_06.html

平安貴族の栄華と影:なぜ藤原道長は糖尿病だったかについて徹底解説

<https://onoyuri-clinic.jp/archives/3518>

臨床糖尿病支援ネットワーク(糖尿病と低所得)

<https://www.cad-net.jp/mano/uploads/176/843b18c70099b2455e9c1b1c553d0e75.pdf>

日本における病名「糖尿病」の由来について, 羽賀達也他(2006), 日本糖尿病学会誌「糖尿病」49巻8号 p. 633-635

https://www.istage.jst.go.jp/article/tonyobyoy/49/8/49_8_633/pdf-char/ja

ネコネコアタック (21) 〜あ!!〜

カラー写真はこちら

(https://www.nucoop.jp/coop/coop_399.html)

ネコネコアタックの記事を書こうとして、レモンのことを書いた。毎号、カラー写真が見られるWEBかけはしの案内を載せるため、前号の記事からコピペしている。今回もコピペするために前回の記事のファイルを開いた……。あ!!今作成した原稿と同じ内容が書いてあるじゃないか。レモンの日常は3か月前と変わらず、私の意識に止まるレモンの行動も3か月前と変わらないようだ。



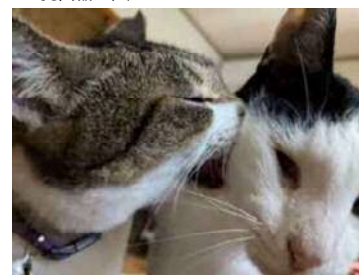
洗面器に入るざぼん



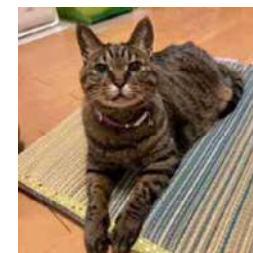
れもん



レモンの共演



、かわいいやつ



そういうところ好きだよ〜

生協レポート～脂っこくないメニュー試してみた

カラー写真・過去記事はこちら (<https://www.niccoop.jp/coop/coop2399.html>)



昔よりも揚げ物へ抵抗のある歳になってきたので、脂っこくないメニューも増えると嬉しいですね。という意見をかけはしの輪にいただいたので、揚げ物の入っていない、脂っこくないメニューにできないか、やってみました。南部・北部・理系地区でそれぞれ試してみたのだが、基本的なスタイルは理事会会から提案していただいた、ごはん、みそ汁または豚汁に小鉢を追加するという感じだった。そして、今回の思わぬ発見はセットメニューよりも安くなるが多かった点だ。カロリー控えめ、お値段も控えめだった。

●南部食堂（夏季休暇中だったため2回は休業ちゅうで、1階で食べました）

ごはん、豚汁、15品目のヘルシーサラダ、ひじき煮、ぶり照り煮（¥539）

●北部食堂①：鮭丼、サラダ

ごはん、豚汁+α以外の献立にしかかったので、鮭丼。鮭丼には私としては卵をトッピングしたいのだが、この日はなかったのでもたごなし。たまごありは、33号に掲載していますので、そちらもご覧ください。

また、この日は濃厚ごまだれ冷やし中華、豚冷しゃぶ+ごはん・豚汁のどれにするか迷ってしまった

●北部食堂②：今回はごはん豚汁+豚冷しゃぶ、なんかおひたし

そんなわけで、日を改めてポラリスダイニングに行ってきた。今回はごはん豚汁+豚冷しゃぶ、なんかおひたし

●ダイニングフォレスト：ごはん豚汁+サバの生姜煮、

本当はきんぴらも注文したのだが、おなかがすいていてついつい写真を撮る前に食べてしまったため、きんぴらなしのメニュー



生協への意見・通信

★犬版も見えてみたいです。【匿名（編）】書いてくれる人を探しますのでもうお待ちください。★レシートにマイカの残高表示がなくなると不便になりました。また記載してもらえないことはできないでしょうか？【ベ子ちゃん（理事会）】ご不便をおかけして大変申し訳ありません。現在のレジシステムではレシートでの残高表示が出来ない仕組みになっています。次回システム更新の際には要望を伝えます。さしあたって、現在の残高確認の方法は、Webからマイページで確認をすることが出来ます。以下URLよりお入り頂き、【4】（2）残高の確認方法」をご参照ください。
https://www.niccoop.jp/service/service_752.html
次のQRコードからもアクセスすることが出来ます。



★毎日学食を美味しく食べさせて頂いております。昔よりも揚げ物へ抵抗のある歳になってきたので、脂っこくないメニューも増えると嬉しいですね。【オリゴデンドロサイト】（編）花の木には脂っこいメニューの選択肢が南部・北部・フオレストに比べて比較的选择肢があるかと思いますが、少し遠いかもと思いますが一度利用してみてください。また、このご意見を見て、「脂っこくない組み合わせ試してみた」の記事を思いつきました。生協からの回答と似た感じになっていますが、こちらも一度試してみてください。

い。（理事会）いつも生協食堂をご利用いただきありがとうございます。ご意見いただきまして、メニュー構成に反映できるよう努力してまいります。総菜の小鉢メニュー+豚汁のように組み合わせで食事をされることもお勧めです。引き続きよろしくお願いたします。★名大祭に行くことができなかったで、なご猫の展示の様子を紹介してほしいです。【花中島マサル】（編）今月号に掲載予定です。原稿間に合うかな？もし載っていないかったら間に合わなかったと思ってください。その場合は370号に掲載します。

編集部より

これを書いているのは9月の中旬なのですが、まだまだ残暑が続いています。これを読まれる10月には残暑が和らいでいることを願っています。今回も巻末に漢字クイズをご用意いたしました。巻末のクイズのページ左上に付いているQRコードからご回答をお寄せください。お待ちしております。パソコンからの応募の場合は、「かけはし クイズ回答」のキーワードで検索していただくとクイズ応募フォームのページに行くことができます。ご応募の際、「かけはし」の感想、生協へのご意見などなんでも結構ですでお書きいただければと思います。今後のかけはし発行の励みになりますので、皆さんのご応募お待ちしております！

生協職員紹介 第41回

医学部・大幸食堂
店長 伊藤 真理子

■自己紹介

大学生協には大学生の頃からお世話になっており、就職活動時に当時の芝浦工業大学の専務からお誘いいただいたのがきっかけで入協致しました。はじめは東京大学本郷キャンパスの食堂部に所属し、3年目から駒場キャンパスの食堂部でパーティ担当・現場責任者を経験しました。東海地区へは希望を出して2022年に異動してきて、名古屋市立大学の食堂店長を経て、現在に至っております。



■どんな仕事を？

医学部・大幸食堂の2店舗兼任の店長として働いています。皆さんに充実したお昼ご飯・お昼休憩をとっていただけるように考えながら、従業員一丸となってお食事の提供をしています。

■趣味・休日の過ごし方

小さい子供がいるので、できるだけお出かけするようにしています。カフェ巡りやピクニックをしたり、Costcoで大量買いをしてごはんのレパートリーを増やしたりと楽しく過ごしています。

■読者の皆さんへひとこと



【アプリでかんたん決済に！】

生協アプリもほとんどの利用者の方に安定してご利用いただけるようになってきました。1円単位でのご購入で手を煩わせてしまいますので、ぜひ生協加入(脱退時に返金されます)とアプリ決済を試してみてくださいと思います！



○医学部食堂・大幸食堂

※営業時間については
生協ホームページにてご確認ください。
<https://www.nucoop.jp/>

かけはしの輪

前号の感想

★ドキドキ医療体験が、リアルで読んでいて共感できる部分があった面白いです。(面白いといつては、良くないのかもしれないが)【匿名】
(鳥飼)「面白い」でかまいませんよ。私も自分の症状に病名がついて、それをネットで検索して(玉石混交ですが)、色々知ることが楽しいです。
★猫のコーナーが良かった(猫アレルギーで触れないので)【匿名】

(編) ありがとうございます。猫が触りたくてもアレルギーで触れない方からの好評はポジティブサプライズでした。今後ともかけはしをご愛読ください。
★猫かわいい【匿名】
(編) 一日に10回以上は発言する言葉ですね！

★ジャージャー麺、気になります。美味しそう。【匿名】
(編) ジャージャー麺の反響があったて書いた甲斐がありましたこの号が出るころにはもう売っていないかと思いますが、花の木の商品をお楽しみください。
★ヘモグロビンA1cがオーバーした件、とても他人事と思えませんでした。努力して結果も出されていてすごいです！【ベ子ちゃん】

(鳥飼) 夏場は暑くて汗をよくかきますので食生活の改善に最適だと思います。
秋から冬は甘いものこつてりなものが美味しくなりますよね。修行難度が上がります(苦笑)
★いつもは食レポを読んで楽しんでいただけでしたが、ついに紹介されていたメニューを美食しました。惹かれたのはジャージャー麺です。行っただけから気づいたのが、きしめんであるというところ。さすが花の木さん、オリジナリティがありますね。コ

シがあって美味しい麺でした。ライスのセットがあるのに疑問を感じてサラダセットにしました。追いついたくなる味噌の濃さとジャンキーさで納得。ご紹介ありがとうございました。
【ハチワレ】
(編) 追い飯したくなる気持ちまで納得していただいて嬉しいです。確かにきしめんであるところは他にないオリジナリティですね。

★面白かった【匿名】
(編) 引き続き楽しんでいただける紙面づくりを目指します。これからもご愛読ください。
★生協レポートに紹介されていた夏季メニュー・ジャージャー麺を食べたいと思いましたが、研究所地区からは食堂まで距離があり、利用できず残念です！【匿名】

(編) 夏場は暑いですがこの号が出るころには過ぎやすい季節になっていくと思いますので(希望) 散歩がてらかけはしの季節メニューを食べに来てみて

ください。

★ネコネコアタックの柑橘猫ちゃん達が皆フクフクしているのが愛がられているのがよくわかりました。レモンちゃんが挟まっているのを見て、やはり猫はそういう場所が好きなのだ、と思いました。【花中島マサル】
(編) ちょうど擬態語の話題を記事にしたところだったので、「フクフク」という擬態語はともうまくいろいろなることを言い表していると感じました。レモンはされるがままなのですが、確かに「挟まってる」状況の方がより落ち着いてくれる気がします。

名大グッズ紹介 第41回

名大和三盆

伝統的な手法で製造された香川県特産の「さぬき和三盆糖」の名古屋大学オリジナル商品です。大学名とロゴマーク、豊田講堂がプリントされています。化粧箱にも豊田講堂とロゴマークが印字されています。



710円



CO-OP QUIZ

N o . 3 6 9
2024年10・11月号

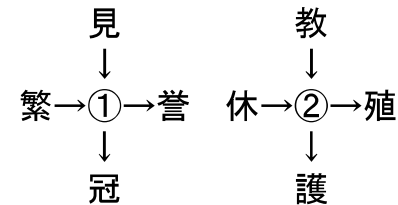
今回も漢字クイズをご用意しました。
以下のクイズが解けたら、左上のQRコードからご応募ください。
パソコンからご応募の方は
<http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/kakehashi/answer.html>
もしくは「かけはし クイズ回答」のキーワードで検索すると上記ページにアクセスできますのでご応募ください。
クイズの解けなかった方はご意見ご感想だけでも結構です。お待ちしております！
クイズ正解者および、ご意見ご感想を送っていただいた方の中から5名様に「生協電子マネー（Meica）500円分」を差し上げます。
（当選者の生協電子マネー残高に自動チャージいたします。）



368号の解答： 花火



中央の①と②に漢字を入れて、矢印の方向に読んで二字熟語をそれぞれ4つずつ作ろう。さらに、その①と②とを並べて二字熟語を完成させよう。それがクイズの答えです。
（ヒント：生協の食堂でいっぱい取ってね。）



答え：①②



応募総数 368名の正解者
11名

正解者数 11名

当選者（敬称略）

岩田 香織（工学部・工学研究科）
近藤 匠（工学部・工学研究科）
山川 藍（総務課図書係）
西井 勝則
（未来材料・システム研究所）
吉原 嘉子
（未来材料・システム研究所）

応募要項

○ 締切は10月31日
（正解発表は370号）
○ 応募は左上のQRコードから
○ クイズ正解者・ご意見や感想の記入者（いずれも生協加入者）
○ 但し、当選後のご加入も可）の中から、抽選で5名の方に生協電子マネー1500円分をお贈りします。
○ 生協へのご意見・ご要望をどしどしお寄せください。

当選された方の生協電子マネー（Meica）残高に500円分をチャージさせていただきます。